

夕張市ゼロカーボンシティ宣言

近年、温室効果ガスの増加が原因とされる地球温暖化、そしてそれに起因すると考えられる大規模な気象災害が世界中で頻発しています。

日本においても、記録的な猛暑や豪雨による自然災害が毎年発生するようになりました。

この気候変動リスクは、今後さらに高まることが予測されており、温室効果ガスの排出者として、私たち一人ひとりが当事者意識を持ち、状況の改善に向けた努力を行っていくことが大切であります。

政府及び北海道は「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを自治体が宣言する」ことの推奨を行っております。

夕張市は、全国的な知名度を誇る「夕張メロン」を栽培しているほか、日本で2番目の湛水面積を誇る夕張シューパロダム、レースイスキー場など多くの自然の恵みを楽しんでいます。

更に、二酸化炭素の吸収に大きな効果を及ぼす森林の面積は、市の総面積の9割以上となっております。

こうした豊かな自然を守り、将来の世代が安心して暮らすことができるまちづくりを進めるため、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを目標に、夕張市においてゼロカーボンシティの取組みを進めることを宣言します。

令和5年3月1日

夕張市長 厚谷 司